

石垣島川平保護水面周辺におけるヒメジャコ資源の現状 (講演要旨)

久保 弘文

沖縄県石垣島の川平保護水面周辺におけるヒメジャコ資源について、個体数密度(時間当たり発見個体数)、個体毎のサイズ、生息地盤高、外套膜色等を調査し、これ以前に行われた他の定量調査の情報も若干加味して考察した。

保護水面内におけるヒメジャコは、水深や離岸距離とは無関係に漁獲制限殻長を越す80~120mmの大型貝が多く生息しており、その外套膜色も目立ちやすい青色系のものが、大きさと無関係に一定割合を占め、豊かなヒメジャコ資源の存在が示唆された。

一方、保護水面の外では80mm以下の小型貝に多くを占められ、特に干上がりやすい浅い地盤において、大型のヒメジャコ(特に目立ちやすい青色系外套膜)が有意に少ないことがわかった。この原因について、地元での慣習的な潮干狩り「浜うり」が影響していると推測し、人々が浜へ降りる場所との位置関係を調査し

たところ、明らかに降り場からの到達距離が短い場所でヒメジャコが少ないことが判明した。

保護水面内では十分に大成したヒメジャコ資源の存在により、周辺海域へ相当のスピルオーバー効果が期待され、実際に新規に着定したと考えられる小型貝が多く認められる場所も少なくない。しかし、保護水面の外においては、せっかく根付こうとしている小型貝が、産卵貢献の前に不当採捕されて、増殖できない状況となっており、沖縄特有の潮干狩り慣習について、再考が必要と考えられた。

Hirofumi KUBO : On the resources of *Tridacna crocea* in and around Kabira M.P.A. in Ishigaki Is.

平成16年度日本貝類学会 研究発表
平成17年4月16~17日